

テーマ討論 10:00～12:00 「産業界における女性の研究者・技術者を増やすために」
オーガナイザー 森 義仁氏（日本化学会）

1. お茶の水大学の森先生からテーマ討論会を以下の手順で行う事が説明されました。
 - ・趣旨説明
 - ・アンケート記入
 - (1)産業における女性の研究者・技術者が少ないことによる影響
 - (2)女性の研究者・技術者が少ないこと理由
 - (3)女性研究者・技術者が増えることにより期待されること
 - (4)増やすための方法
 - (5)まとめ
2. 趣旨説明
最初の 20 分で森先生が科学史の研究から男女共同参画に係わられるようになった経緯を話され、
 - ・日本の高齢化は急速に進みつつあること
 - ・女性の労働人口における 30 歳代から 40 歳代の M 字形は先進国の中では日本独特なこと
 - ・国勢調査では日本は専門技術職女性は急増しているが、主な分野は保健・農学であって、その他の分野では横ばい状態であること等日本と世界の女性研究者・技術者の現状を統計資料を用いて紹介されました。
3. アンケート調査
テーマ討論会参加者全員でアンケート記入を行いました。
4. 「(1)産業における女性の研究者・技術者が少ないことによる影響」について討論し、
 - ・戦力が少ない ・戦力が埋もれている ・多様性に欠ける
 - ・女性の登用で新しい観点が見出せる 等の意見が出ました。
5. 「(3)女性研究者・技術者が増えることにより期待されること」について引き続いて討論し、次のような意見が出ました。
 - ・女性採用はイメージアップ
 - ・職場の雰囲気明るくなる
 - ・男性の生活体制(衣食)にも影響を与える
 - ・女性の頑張る意識が社会全体にも影響を与える
 - ・女性の結婚後、特に出産後に職場でのリスクが発生する
 - ・上記の事柄を解消するためには多様な生き方が可能な社会が必要だが、なにより男性が変わる必要がある。
 - ・今まで「男性が変わる」といった議論が存在したか
 - ・仕事をしつつ育児も家事もこなすという夫の在りようは、母親が息子をどう育てたかによる。
6. 更にどうしたら女性研究者・技術者を増やせるかについて意見交換しました。
 - ・個人の努力に期待するには限度がある。社会、制度から変えるというトップダウンの仕組みが必要
 - ・現場では当然利益が優先されるため、トップダウン方式で数値目標を示しての努力も必要。時間の制限でまとめはできませんでしたが、多くの参加者により活発な意見交換がなされました。